(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3819715号
(P3819715)
(45)発行日　平成18年9月13日(2006.9.13)　(24)登録日　平成18年6月23日(2006.6.23)

(51)Int.Cl.　　F I
B67D 1/16 (2006.01)　　B67D 1/16
B67D 1/04 (2006.01)　　B67D 1/04　Z

請求項の数 1　(全 7 頁)

(21)出願番号　特願2001-12364(P2001-12364)
(22)出願日　平成13年1月19日(2001.1.19)
(65)公開番号　特開2002-211698(P2002-211698A)
(43)公開日　平成14年7月31日(2002.7.31)
審査請求日　平成15年12月19日(2003.12.19)

(73)特許権者　000109325
ツインバード工業株式会社
新潟県燕市吉田西太田字潟向２０８４番地２
(72)発明者　小檜山篤
新潟県西蒲原郡吉田町大字西太田字潟向２０８４番地２ツインバード工業株式会社内
(72)発明者　西澤　洋
新潟県西蒲原郡吉田町大字西太田字潟向２０８４番地２ツインバード工業株式会社内

審査官　齊藤　公志郎

最終頁に続く

(54)【発明の名称】飲料注出装置

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
内部に飲料容器を収容可能な容器本体と、容器本体に収容された飲料容器内の飲料を飲料容器外に注出するための注出機構とを有する飲料注出装置において、前記容器本体の上方に開口部を形成すると共に前記容器本体の下部に突起部を形成し、前記開口部を覆う蓋体を設けると共にこの蓋体に凹部を形成し、前記蓋体を、飲料の注出時に前記容器本体の外面よりも外方に突出する注出機構の注出口下方に位置させて、こぼれた飲料を受けるように設置可能に構成すると共に、前記蓋体の凹部に前記容器本体の突起部が係合するようにこの容器本体を載置することで、蓋体が容器本体に対して位置決め可能となるように構成したことを特徴とする飲料注出装置。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明が属する技術分野】
本発明は、飲料容器内の飲料を器に注出するための飲料注出装置に関するものであり、特に、家庭等で用いられる比較的小型の飲料注出装置に関するものである。
【０００２】
【発明が解決しようとする課題】
従来この種の飲料注出装置としては、例えばビール等の飲料容器内に炭酸ガス等を送り込み、この炭酸ガスの圧力によって注出口からジョッキやコップ等の器に飲料を注ぐ飲料注出装置が、業務用として知られている。一方で、１～３リットル程度の容量の容器に入

った飲料が一般向けに販売されており、これを数人で飲む場合に使用するような、比較的小型で簡易な家庭用の飲料注出装置も知られている。（例えば、特開２０００－８５８９０号公報等）

【０００３】

しかしながら、これらの飲料注出装置においては、注出口から飲料がこぼれてしまう虞があった。このため、業務用の飲料注出装置の中には、こぼれた飲料を受ける部分を有するものが存在するが、前述したような家庭用の飲料注出装置については、このようなこぼれた飲料を受ける部分は設けられていない。これは、そのような飲料を受ける部分を設けると大型化及びコストアップに繋がることと、テーブル上に置くのであれば、多少こぼれたとしても拭けば済むからである。ところが、飲料を大量にこぼしてしまった場合、テーブルから床に飲料がこぼれてしまう虞もあるため、何らかの形でこぼれた飲料を受ける必要があった。

【０００４】

本発明は以上の問題点を解決し、こぼれた飲料を受ける部材をコンパクトに且つ安価に構成した飲料注出装置を提供することを目的とする。

【０００５】

【課題を解決するための手段】

本発明の飲料注出装置は、内部に飲料容器を収容可能な容器本体と、容器本体に収容された飲料容器内の飲料を飲料容器外に注出するための注出機構とを有する飲料注出装置において、前記容器本体の上方に開口部を形成すると共に前記容器本体の下部に突起部を形成し、前記開口部を覆う蓋体を設けると共にこの蓋体に凹部を形成し、前記蓋体を、飲料の注出時に前記容器本体の外面よりも外方に突出する注出機構の注出口下方に位置させて、こぼれた飲料を受けるように設置可能に構成すると共に、前記蓋体の凹部に前記容器本体の突起部が係合するようにこの容器本体を載置することで、蓋体が容器本体に対して位置決め可能となるように構成したものである。

【０００６】

本発明は以上のように構成することにより、不使用時及び飲料容器の収納時には、容器本体の開口部を蓋体で覆い、飲料の注出時には、蓋体を開口部から取り外し、前記蓋体の凹部に前記容器本体の突起部が係合するようにして、前記容器本体の一部を前記蓋体の上に載置して前記蓋体を注出口下方に設置することで、注出口からこぼれた飲料を蓋体で受ける。

【０００７】

【０００８】

【０００９】

【発明の実施形態】

以下、本発明の実施形態について、図１乃至図６に基づいて説明する。１は容器本体である。この容器本体１は、上方に開口部２を有した中空の樽状に形成されており、この開口部２が蓋体３によって閉蓋可能に構成されている。この蓋体３は、裏側が凹んだ皿状に形成されている。そして、前記容器本体１の下面には、突起部たる足４が複数形成されている。また、前記容器本体１の開口部２の縁には、溝部５が形成されている。更に、前記容器本体１の溝部５を形成した位置近傍の下部には、取付板６が側方に突出して設けられていると共に、この取付板６上に加圧部７が取り付けられている。この加圧部７は、手動の圧縮ポンプ部８と、この圧縮ポンプ部８によって送られた空気を貯めるタンク部９と、このタンク部９内の空気を排出する比較的柔軟なチューブ１０とで構成されている。なお、前記足４のうち、前記取付板６近傍に設けられた二つの足４ａの容器本体１底面からの突出量Ｘは、それ以外の二つの足４ｂの突出量Ｙに対して蓋体３の厚さＴ分だけ大きく突出している。また、前記蓋体３の裏側には、前記容器本体１の足４に対応して凹部１１が形成されていると共に、蓋体３の縁から凹部１１の底までの深さＺは、前記足４ｂの突出量Ｙよりも浅く形成されている。更に、前記溝部５は前記チューブ１０の外径よりも広く且つ深く形成されている。

【００１０】
前記容器本体１の内底部には、位置決め用の突条１２が形成されており、図３に示すように、容器本体１内に飲料容器Ｂを収容したときに、この飲料容器Ｂが突条１２によって容器本体１のほぼ中央に位置決めされる。前記飲料容器Ｂは、上方に開口部（図示せず）が形成されていると共に、この開口部に対して注出機構１３が着脱自在に取り付けられている。この注出機構１３は、前記チューブ１０を接続するための圧縮空気導入部１４と、ハンドル１５と、注出口１６を有しており、この注出口１６の先端側は下方に曲げられていると共に、容器本体１内に収容した飲料容器Ｂの開口部に注出機構１３を取り付けた際に、容器本体１の外周よりも外方に突出する長さに形成されている。なお、前記飲料容器Ｂの外周には保冷材Ｃが巻き付けられている。

【００１１】
次に、本実施形態の作用について説明する。まず、初期状態について説明すると、容器本体１の内部には注出機構１３が収容されていると共に、蓋体３によって開口部２が閉蓋されている。このとき、注出機構１３と加圧機構７はチューブ１０によって接続されているが、このチューブ１０をチューブ１０の外径よりも広く且つ深い溝部５に通すことで、開口部２と蓋体３でチューブを挟んでしまう虞がなく、蓋体３が浮くことなく開口部２を閉蓋することができる。また、前記注出口１６は注出機構１３から取り外されている。また、この状態では、足４ａと足４ｂの容器本体１底面からの突出量Ｘ，Ｙが異なるため、テーブル天板等の水平面Ｌに載置した場合、容器本体１が僅かに傾くことになり、取付板６が僅かに浮き上がることになる。

【００１２】
次に、使用状態について説明する。まず、容器本体１から蓋体３を取り外して開口部２を開放し、取り外した蓋体３を裏返してテーブル天板等の水平面Ｌに載置する。即ち蓋体３は、上方に凹みを有する皿状となるように水平面Ｌ上に載置されることになる。そして、蓋体３に形成された凹部１１のうちの二つに足４ｂのみを係合させるようにして、容器本体１の一部を蓋体３上に載置する。この状態で、蓋体３は容器本体１の外周よりも側方に突出した状態で位置決めされることになると共に、足４ｂの突出量Ｙが足４ａの突出量Ｘよりも蓋体３の厚さＴ分だけ小さいので、足４ｂを蓋体３上に置くことで、容器本体１は水平面Ｌに対して直立することになる。このため、利用状態においては、容器本体１及び蓋体３は位置がずれずに安定した状態となり、また直立することで安定して飲料を注出することができる。そして、容器本体１内に保冷材Ｃを巻き付けた飲料容器Ｂを収容し、その開口部に注出機構１３を取り付けると共に、この注出機構１３に注出口１６を取り付ける。このとき、この飲料容器Ｂは突条１２によって容器本体１内のほぼ中央に位置決めされる。また、前記注出機構１３は、その注出口１６の先端が蓋体３上に位置するようにして飲料容器Ｂの開口部に取り付けられる。

【００１３】
そして、飲料容器Ｂ内の飲料をコップやジョッキ等に注ぐ場合、まず加圧部７の圧縮ポンプ部８を操作してタンク部９に空気を加圧状態で貯めておく。このタンク部９内の圧縮空気は、チューブ１０を経て圧縮空気導入部１４に至るが、ハンドル１５を立てた状態では、この圧縮空気は飲料容器Ｂ内には入らない。次に、注出口１６にコップやジョッキ等を持ってゆき、ハンドル１５を倒すと、タンク部９内の圧縮空気は、チューブ１０及び圧縮空気導入部１４を経て飲料容器Ｂ内に入る。このとき、圧縮空気によって飲料容器Ｂ内の圧力が高まるため、飲料容器Ｂ内の飲料が押されることになり、これによって、飲料が注出口１６からコップやジョッキ等に注がれることになる。そして、ハンドル１５を再び起こすと、圧縮空気導入部１４からの圧縮空気の供給が遮断されることになる。飲料容器Ｂ内の飲料は、飲料容器Ｂ内の圧力と大気圧との差が、飲料容器Ｂ内の飲料を液面から注出口まで押し上げるのに相当する圧力まで低下した時点で注出口１６から注出されなくなる。このとき、僅かな飲料が注出口１６から滴下することがあるが、注出口１６の下方に蓋体３が置かれているため、この滴下した飲料を蓋体３で受けることができ、これによってテーブルや床を汚さないようにすることができる。また、ハンドル１５を立ててすぐに

コップやジョッキを注出口１６から離したりした場合、大量の飲料が注出口１６からこぼれる虞があるが、飲料が大量にこぼれたとしても、蓋体３が皿状であるため、飲料をこぼさずに受けることができる。更に、前記蓋体３が容器本体１の下方と重複して配置されているので、こぼれた飲料が容器本体１と蓋体３の間からテーブルや床にこぼれることがなく、確実にこぼれた飲料を受けることができる。

【００１４】

使用後は、飲料容器Ｂから注出機構１３を取り外して、空になった飲料容器Ｂを容器本体１内から取り出す。そして、注出機構１３から注出口１６を取り外し、更に圧縮空気導入部１４からチューブ１０を取り外して、注出機構１３及び注出口１６を洗浄する。洗浄後は、注出機構１３及び注出口１６の水分を拭き取り、圧縮空気導入部１４にチューブ１０を再び接続して容器本体１内に収容すると共に、蓋体３上にこぼれた飲料を拭き取り、容器本体１の開口部２を蓋体３によって閉蓋する。このように、蓋体３によってこぼれた飲料を受けるようにすることで、不使用時に蓋体３で開口部２を閉蓋することになるため、装置全体を不使用時にコンパクトにして片づけることができる。

【００１５】

以上のように本発明は、容器本体１の開口部２を蓋体３によって閉蓋可能とし、使用時には、裏返した蓋体３の凹部１１に容器本体１の突起部たる足４のうちの一部の足４ｂを係合させるようにして載置し、容器本体１内に収容した飲料容器Ｂの開口部に取り付けた注出機構１３の注出口１６の先端が容器本体１の外面よりも外方に突出すると共に注出口１６の下方に前記蓋体が位置するようにすることで、注出口１６からこぼれた飲料を蓋体３で受けてテーブルや床等を汚さないようにでき、不使用時に注出機構１３を容器本体１内に収容して蓋体３で閉蓋することで装置全体をコンパクトにできるばかりでなく、足４ｂと凹部１１とで蓋体３を位置決めして動かないようにし、確実にこぼれた飲料を受けるようにしたものである。

【００１６】

なお、本発明は以上の実施の形態に限定されるものではなく、発明の要旨の範囲内で種々の変形が可能である。例えば、飲料容器内の飲料を注出するための注出機構は、上記実施形態に記載されたもの以外、例えば電動注出式であってもよい。また、突起部たる足の数及び蓋体の凹部の数は適宜設定が可能である。

【００１７】

【発明の効果】

本発明の飲料注出装置は、内部に飲料容器を収容可能な容器本体と、容器本体に収容された飲料容器内の飲料を飲料容器外に注出するための注出機構とを有する飲料注出装置において、前記容器本体の上方に開口部を形成すると共に前記容器本体の下部に突起部を形成し、前記開口部を覆う蓋体を設けると共にこの蓋体に凹部を形成し、前記蓋体を、飲料の注出時に前記容器本体の外面よりも外方に突出する注出機構の注出口下方に位置させて、こぼれた飲料を受けるように設置可能に構成すると共に、前記蓋体の凹部に前記容器本体の突起部が係合するようにこの容器本体を載置することで、蓋体が容器本体に対して位置決め可能となるように構成したものであり、不使用時及び飲料容器の収納時には、容器本体の開口部を蓋体で覆い、飲料の注出時には、蓋体を開口部から取り外し、前記蓋体の凹部に前記容器本体の突起部が係合するようにして、前記容器本体の一部を前記蓋体の上に載置して前記蓋体を注出口下方に設置することで、注出口からこぼれた飲料を蓋体で受けるので、安価で且つコンパクトな構造で飲料を受け、テーブルや床を汚さないようにすることができると共に、前記蓋体が前記注出口の下方から外れてしまうことなく確実に飲料を受けることができる。

【００１８】

【図面の簡単な説明】

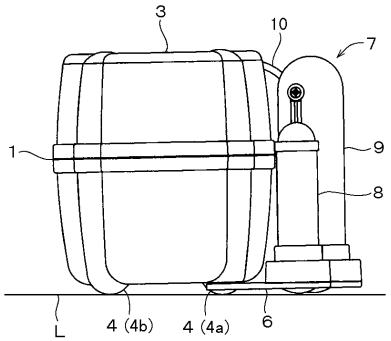
【図１】　本発明の一実施形態を示す飲料注出装置の不使用時における側面図である。

【図２】　同上、使用時における側面図である。

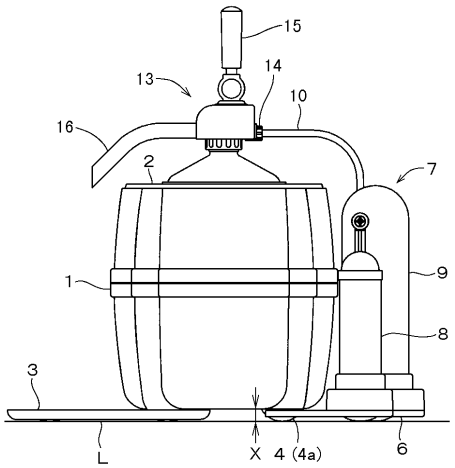
【図３】　同上、使用時における断面図である。

【図４】　同上、使用時における平面図である。
【図５】　同上、使用時におけるＡ－Ａ断面図である。
【図６】　同上、蓋体を裏側から見た図である。
【符号の説明】
１　容器本体
２　開口部
３　蓋体
４，４ａ，４ｂ　足（突起部）
１１　凹部
１３　注出機構
１６　注出口
Ｂ　飲料容器

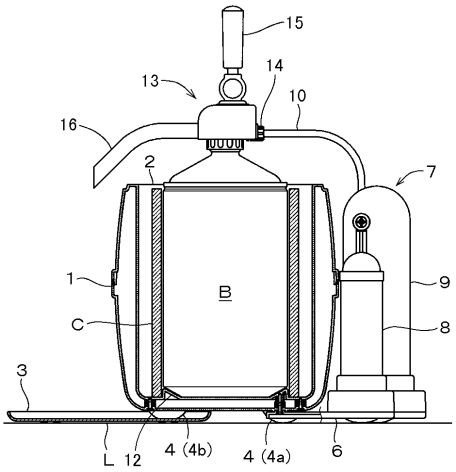
【図１】



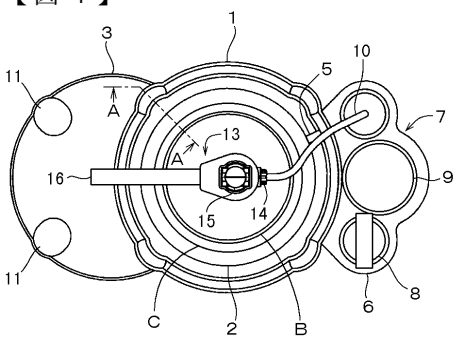
【図２】



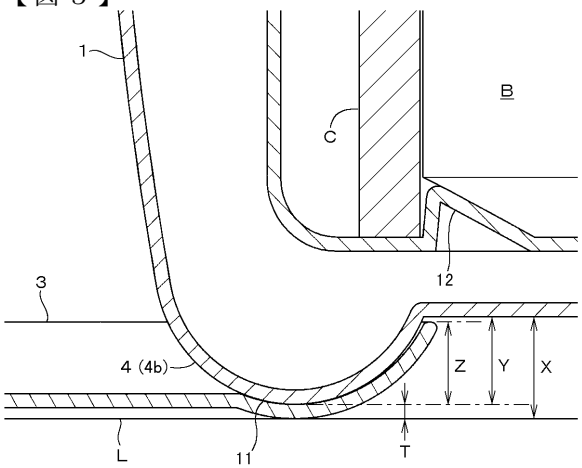
【図３】



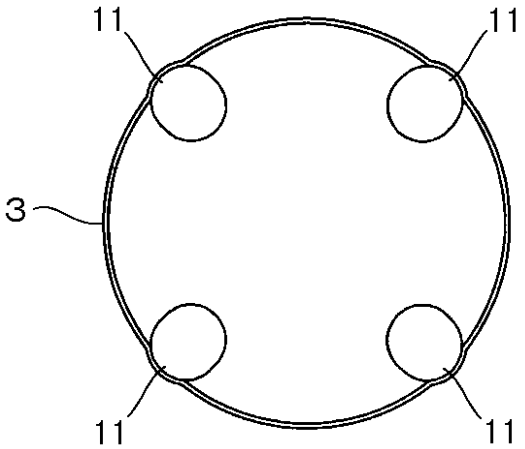
【図４】



【図５】



【図６】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開平０８－２３０８６１（ＪＰ，Ａ）
実開昭５７－１９３６３８（ＪＰ，Ｕ）
登録実用新案第０４６５４９（ＪＰ，Ｚ２）
実開昭５８－０４１３７８（ＪＰ，Ｕ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)

B67D 1/16
B67D 1/04
B67D 1/08
B65D 25/00
B65D 43/00